

HPAI 発生時における鶏用飼料を活用した低水分鶏ふんの堆肥化処理法の検討：畜産研究所 脇本進行

【目的】HPAI 防疫指針等に即した肉用鶏低水分鶏ふんの発酵消毒を行うため、汚染物品である鶏用飼料を用いた堆肥化処理法を検討。【方法】堆肥化実証施設において、（試験 1）封じ込め措置・加水した低水分鶏ふんに発酵助材として鶏用飼料を重量比で 5% 添加し、堆肥化処理を実施。（試験 2）封じ込め措置・加水した低水分鶏ふんに堆肥化物が過去の試験から得られた含水率 50% となるよう副資材として①オガクズ 100%、②鶏用飼料 50%：オガクズ 50%、③鶏用飼料 100% を添加混合し、堆肥化処理を実施。【結果と考察】（試験 1）鶏用飼料を重量比で 5% 添加したところ、防疫指針で求められる 60℃ 以上の発酵温度を確認。（試験 2）発酵温度は、いずれの区も 60℃ 以上を確認。これらのことから鶏用飼料の活用の可能性が示された。なお、鶏用飼料を活用する場合は、オガクズを使用する場合より堆肥化時のアンモニアガス発生濃度が高いため、切り返し時間帯や風向きなどに注意が必要。